

～みんなで見直そう地域の絆～

# 『農と環境を守る地域協働活動シンポジウム』を開催

京都府農地・水・環境  
保全向上対策協議会

## 要 旨

11月17日（土）にKBSホール（京都市）において『農と環境を守る地域協働活動支援事業（農地・水・環境保全向上対策）』に係るシンポジウムを開催し、府内外から400名を超える多くの方が参加されました。

本シンポジウムは、農村における“地域力再生”の取組の一つとして本年度から新たに始まった本活動を、広く府民の方に理解を深めて頂くため開催したもので、農村の現状や地域での頑張りなどを発信しました。

- 日 時： 平成19年11月17日（土） 午後1時30分～4時30分
- 場 所： KBSホール（京都市上京区）
- 参加者： 約410名（府内各地域の活動組織、一般参加者、行政関係者他）
- 主 催： 京都府、京都府農地・水・環境保全向上対策協議会

## 基調講演（近畿大学農学部 池上甲一教授）

演題「農村地域力による新たなまち起こし・むら起こし」

地域おこしの活動事例を交えながら、“地域力”について講演「地域力の基本は環境・資源管理であり、まずは声をかけ、一歩を進めることが大切である。」



## 事例報告 2 地域

### （1）京都市左京区大原地域

大原里づくりトライアングル 代表 ○○○○氏

「癒しのある里づくりを目指して」をテーマに、非農家と協働した遊休農地再生による観光梅園づくりや学校と連携したオオムラサキの保護の取組などについて報告  
「5年後の大原を楽しみに！」と活動報告



### （2）京丹後市久美浜町甲山地域

甲山区活性化協議会 代表 ○○○○氏

「地域協働活動から見えてきた むらの絆」をテーマに集落全体で取組む農地等の保全活動や、子ども会と連携した生き物水路づくりや生き物調査の取組など報告  
「子ども達と一緒に集落を守っていききたい」と報告



## パネルディスカッション テーマ『地域協働活動の維持・再生について』

- コーディネーター 池上 甲一 氏（近畿大学農学部 教授）
- パネリスト ○○ ○○ 氏（大原里づくりトライアングル 代表）
- ○○ 氏（甲山区活性化協議会 代表）
- ○○ 氏（NPO法人日本都市農村交流ネットワーク協会 理事）
- ○ 氏（府農業士会副会長、南丹市八木町在住）
- 山崎 弘士 氏（KBS京都Radioパーソナリティ）

- ・ 農村女性のパワーを地域づくりに活用すべき。（中村氏）
  - ・ 酪農教育・体験を通じた交流により地域活性化につなげていきたい。（谷氏）
  - ・ 農村で農業を頑張っている人は本当の「文化人」と言いたい。（山崎氏）
- など、参考となる活動報告があり、活発に意見交換されました。



## 参加者の感想

（アンケートより）

- ・ 「今後の取組に明かりが見えてきた。活動のヒントをいただいた。」
- ・ 「力が出るシンポジウムであった。」
- ・ 「ふるさとへの想いが呼び起こされた。」
- ・ 「来年も開催され、より多くの地域の事例を知りたい。」 など

農地・水・環境  
保全向上対策

# 地域のきずな強化

京都で  
シンポジウム  
新たなむら興しも

【京都】今年度から始まった農地・水・環境保全向上対策の、活動報告やディスカッションを行う「農と環境を守る地域協働活動シンポジウム」が17日、京都市上京区のKBSホールで開かれた。京都市大原地域と京丹後市の組織が、地域力による新たなむら興しや幅広くきずなを強められたことを報告するなど、対策によって地域が活気づく効果が見えてきた。

農家と住民が一体となり、農地や水路などを保全していく取り組みを、幅広く府民に理解しても

らおつと、府と府農地・水・環境保全向上対策協議会が共催。府内各地から400人が出席した。

初めに近畿大学農学部の上野一教授が「農村地域力による新たなまち起こし・むら起こし」と

題して講演。「経済や社会は、環境・資源(農村・農業)が支え、それが地域力の基本」と、保全する重要性を訴えた。

事例報告では、京都市の大原里つくりトライアングル代表の宮崎良三さんが「農家以外の組織や地元小・中学校と連携して活動し、滞在型観光農

村・いやしの里大原を目指す」とし景観を守るには農業を守ることの大切さを述べた。

また、京丹後市の甲山区活性化協議会代表の平林保信さんは「自分たちのふるさとを自分たちの手で守ることや、子どもたちに地域のことを伝えること、そして地域のきずなづくりの大切さ」を報告、活動を通して見えてきた新たな地域つくりを話した。

この後、特定非営利活動法人(NPO法人)・日本都市農村交流ネットワーク役員、府農業士副会長、KBS京都アナウン

サーら6人が「地域協働活動の維持・再生について」をテーマにパネルディスカッション。「農家だけでは農村は守れない」「子どもが参加することで住民とのつながりが深まる」などと、あらためて地域ぐるみの「対策」活動のポイントを指摘した。また、「原風景の中で国民の食生活を支えている人は文化人だ」と評価する声もあった。

最後に協議会副会長の牧克昌J A京都中央常務が「次世代に引き継ぐよう、府内全域で活動が進むように協議会も支援する」と締めくくった。